第七講・詩

1、詩の種類

① 言葉による分類
・文語詩…昔の言葉で書かれた詩。
・口語詩…現代に使われている言葉で書かれた詩。

② 形式による分類
・定型詩…音数にある一定のきまりがある詩。
・自由詩…音数にきまりがない、自由な形式の詩。

③ 内容による分類
・叙情（じょじょう）詩…心情が中心の詩。
・叙景（じょけい）詩…風景を表した詩。

2、詩の表現技法

① 比ゆ……あるものをほかのものにたとえて表す技法。

② 擬人（ぎじん）法……人でないものを人にたとえる技法。

③ 倒置（とうち）法……言葉の順序を逆にして意味を強める技法。

④ くり返し法…同じ言葉を何度もくり返す技法。

⑤ 対句（ついく）法……似た調子の言葉を対照的に並（なら）べる技法。

⑥ 省略法……言葉を省略して余いんを残す技法。

⑦ 体言止め…名詞（めいし）を終わりに置いて強調する技法。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある日ある時

黒田（くろだ）　三郎（さぶろう）

秋の空が青く美しいという
ただそれだけで
何かしらいいことがありそうな気のする
そんなときはないか
空高く噴（ふ）き上げては
むなしく地に落ちる噴水（ふんすい）の水も
わびしく梢（こずえ）をはなれる一枚の落葉（おちば）さえ
何かしら喜びに踊（おど）っているように見える
そんなときが

---

(1)　この詩の種類を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア　文語詩　　イ　口語詩
ウ　定型詩　　エ　自由詩

(2)　この詩で使われている表現技法を次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア　擬人（ぎじん）法　　イ　反復法　　ウ　対句（ついく）法
エ　省略法　　オ　体言止め

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

雨

西脇順三郎

南風は柔い女神をもたらした。
青銅をぬらした、噴水をぬらした、
ツバメの羽と黄金の毛をぬらした、
潮をぬらし、砂をぬらし、魚をぬらした。
静かに寺院と風呂場と劇場をぬらした、
この静かな柔い女神の行列が
私の舌を［　　］。

(1) ――線「柔い女神」について、次の問いに答えなさい。

㋐ 何を表していますか。漢字一字で答えなさい。

［　　］

㋑ このように、あるものを別のものにたとえて表す表現技法を何といいますか。二字で答えなさい。

［　　］

(2) ［　　］をふくむ一行には、反復法が使われています。［　　］に入る言葉を詩の中からぬき出して書きなさい。

［　　　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

北の春

丸山（まるやま）　薫（かおる）

どうだろう
①この沢鳴り（さわな）の音は
山々の雪をあつめて
ごうごうと谷にあふれて流れくだる
このすさまじい水音は

緩（ゆる）みかけた雪の下から
一つ一つ木の枝がはね起きる
それらは固い芽のたまをつけ
不敵なむちのように
人の額を打つ

②やがて　山すその林はうっすらと
緑いろに色付くだろう
その中に　早くも
こぶしの白い花もひらくだろう

朝早く　授業の始めに
一人の女の子が手を挙げた
――先生　つばめがきました

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ――線①「この沢鳴りの音」とありますが、この音は何がどうなっている音ですか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

□□□□がとけて□に流れていく音。

(2) ――線②「やがて　山すその林はうっすらと／緑いろに色付くだろう／その中に　早くも／こぶしの白い花もひらくだろう」とありますが、この部分についての説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 去年の春の様子をぼんやりと思い出している。

イ 春めいていく様子をうっとりと思い浮かべている。

ウ すっかり春になった様子をじっくりとながめている。

エ 周囲の様子が変わってしまうことを心配している。

□

(3) この詩の主題としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自然の力強さに対する感動。

イ 自然の美しさを見つけたおどろき。

ウ 待ちわびた季節をむかえた喜び。

エ 季節が過ぎて行ってしまう切なさ。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講・確認テスト

次の熟語の組み立てとして正しいものを、後からそれぞれ選びなさい。

1　県立
2　男女
3　深海
4　永久
5　上流

ア　似た意味の漢字を組み合わせたもの
イ　反対の意味の漢字を組み合わせたもの
ウ　上の字と下の字が主語・述語の関係になっているもの
エ　上の字が下の字を修飾する関係になっているもの

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　詩

一題目

(1) イ・エ（順不同）
(2) ア・エ（順不同）

二題目

(1) ㋐雨
㋑比ゆ
(2) ぬらした

三題目

(1) 山々の雪・谷
(2) イ
(3) ウ

〈確認テストの解答〉

1 ウ　2 イ　3 エ　4 ア　5 エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。